

平成27年4月12日
今週のベストショット



雁レクDグラウンド 三苦フレンズ 対 奈多サンデーズ戦

凄まじい飛距離の満塁弾を放つ昨年覇者奈多サンデーズ四番野々下利生久選手。

写真：新町パイレーツ 桐島涼

奈多グラウンド 三球会が終始試合を支配して初戦を制す！

ソルトベスターズ（1敗）0002010 3 酒井●、中村（祐）－春田

三苦三球会 （1勝）300051X 9 吉留○－藤澤

HR：中村（耕）（ソルト） 大津、堺（太）（三球会） 2BH：春田（ソルト） 盗塁：大津（三球会）

初回ソルトベスターズを三者凡退に切って取った三球会吉留投手に対し、ソルト酒井投手は4連続四球に犠牲フライなどで3失点と対照的な立ち上がり。二、三回は両チーム無得点で迎えた四回表、ソルト先頭の矢野選手が出塁すると、四番中村（耕）選手が1点差に迫るHRを放つ。得点圏に進めるものの得点に結びつかない三球会は五回裏、四球から作ったチャンスに押し出しと犠牲フライで2点を取ると、三番大津選手がセカンド横を抜く右中間へ3ランを放つ。六回裏にも三球会五番堺太一選手がレフトヘダメ押しソロHRを放ち勝負あり。吉留投手が最終回を無難に抑え、三球会は初戦を飾った。負けはしたもののソルトは、先発の酒井投手の後を受けた中村（祐）投手が何とか試合を作ったのと、新入団の春田捕手が抜群の肩を見せ三捕殺と守備の面で光明が見えた。（記事：レッドサンデーズ 八島久徳、写真：前田篤史）



球威、制球力共に安定していた吉留投手。



三回表、一塁を駆け抜けた際に左足首を負傷した中村（健）選手。



四回表、反撃の2ランを放つ四番中村（耕）選手。



その強肩ぶりを如何なく発揮した春田捕手。



六回裏、ホームに滑り込み9点目を挙げる堺太一選手。



堺太一選手を出迎える三球会ベンチ。



開幕戦でHRを放った大津（左）堺太一選手（右）。



四番としてHRを放った中村耕一郎選手。

青松園A フェニックス、後半の猛攻で試合を決めた！

奈多フェニックス（1勝）000224 8 池見○、今林（勇）－実延（新）

新町ウインズ （1敗）000000 0 藤田●－今林

HR：実延（彰）、山村（奈多フ） 3BH：実延（新）（奈多フ） 2BH：泉（圭）（新町ウ）

両チームにとって開幕戦となったこの試合は終盤の猛攻でフェニックスがウインズを下した。フェニックスは初回、西藤選手のヒットなどで一死二三塁のチャンスを作るも後が続かず無得点。対するフェニックスの先発、池見投手は打者三人で抑える完璧な立ち上がりを見せる。その後は両投手、スコアボードに0を並べ投手戦の様

相を呈してきた四回表に試合は動いた。フェニックスはヒットとエラーでチャンスを作ると六番実延(新)選手のタイムリー三塁打で2点を先制する。この得点で勢いのついたフェニックスは五回に実延(彰)選手が2ラン、六回に山村選手が満塁HRと一気に試合を決めた。この日のフェニックス攻撃は素晴らしく、いずれ対戦する私は見ていて脅威を感じた。対するウインズは池見投手と五回からリリーフした今林(勇)投手の前に2安打と藤田投手を援護出来なかった。また、この日、ウインズはエラーが4つ出てしまった。その全てが失点に絡んだ訳ではないがしっかり守ることの大切さを考え直させる試合になった。(記事、写真:ブルーマーリンズ 井手翔一郎)



緊張感漂う両チーム。



好投が光ったフェニックス先発池見投手。



惜しくも敗れたが最後まで投げ抜いた藤田投手。



二回裏、二塁打を放つウインズ六番泉圭祐選手。



四回に先制のタイムリーを放ちガッツポーズするフェニックス実延新吾選手。



六回表、満塁ホームランを放ち喜びのダンスをするフェニックス三番山村選手。

雁レクD 奈多サンデース王者の貫録で開幕戦勝利！！

三苦フレンズ (1敗) 20000 2 生野(拓) ●-佐藤

奈多サンデース (1勝) 01235 11 塚本○-長濱

HR: 野々下(奈多サ) 3BH: 寺山(三苦フ) 長濱(奈多サ) 盗塁: 大川、木下、長濱(奈多サ)

一回表、三苦フレンズの攻撃は、幸先よく先頭の松尾選手がライト前ヒットで出塁すると続く二番場崎選手の内野安打により無死一・三塁。三番生野拓選手の内野ゴロの間に三塁走者の松尾選手の好走塁で先制点をもぎ取るとワイルドピッチも重なり2点を先制する。一方、奈多サンデースの一回裏の攻撃は先頭の川上選手が四球で出塁し二番大川選手が内野安打を打つも走者が飛び出しタッチアウトになり後続も倒れ0点に終わる。二回表フレンズは、二死から八番寺山選手の三塁打が飛び出すが後続が断たれる。二回裏以降、前回王者の奈多サンデースがジワジワと三苦フレンズを追い詰め始める。一死から七番木下選手が四球で出塁すると八番鳥羽選手、九番野田選手、一番川上選手の三連打が飛び出し、走者のタッチアウトもあったが二死満塁から二番大川選手が打席に入り粘って押し出し1点を返すも、後続を生田拓投手の気迫のピッチングで1点でこの回は終える。三回表、一番松尾選手が二打席連続のヒットで出塁し、三番生野拓選手、四番佐藤選手の連続ヒットで一死満塁のチャンスを迎えたが塚本投手は落ち着いたピッチングで0点に抑える。三回裏にここまで奈多サンデースの攻撃に耐えてきた生野拓投手、ヒットと四球で満塁になり、八番鳥羽選手の打球はピッチャーゴロのゲッツーコースだったがここでまさかの暴投が出てしまい同点になりさらに追加点で逆転を許す。二回裏以降奈多サンデースは毎回の得点を重ね、四番野々下選手の素晴らしい打球の満塁弾、続く五番長濱選手の三塁打で連続長打も飛び出て終わってみれば12安打11得点。奈多サンデースは、先制されるも落ち着いた試合展開で逆転し、追加点を重ね三苦フレンズを突き放した。三苦フレンズは、良く攻めチャンスを作るも追加点を取ることができなかった。今期も奈多サンデースは優勝候補であるのは疑いようもないが、三苦フレンズも若手が多くこれからの成長が大いに期待され台風の目になってくる可能性大である。(記事、写真: 新町パイレーツ 桐島涼)



奈多サンデースベンチ前整列? (笑)



三苦フレンズの仲よし若手3人組。



奈多サンデース先発の塚本投手。



三苦フレンズ先発の生田拓磨投手。



戦況を見守る奈多サンデースベンチ。



二回表、三塁打を放つフレンズ寺山選手。



軽快な守備でチームの危機を救う田中二塁手。



三回裏、ピンチに集まる三苦フレンズ陣



試合を決めた豪快な一発を放つ野々下選手。



満塁弾を放った野々下選手を迎える奈多サンデーズ。

青松園B 因縁の対決は最終回到ドラマあり！

塩浜ジャガーズ (1敗) 0000010 1 内田●-橋村

奈多クラブ (1勝) 100010× 2 今林(瑠)○-高瀬

3BH: 今林(瑠)(奈多ク) 2BH: 今林(祐)、久保(奈多ク)、内田(塩浜ジ)

盗塁: 道喜(塩浜ジ) 今林(賢)(奈多ク)

一回裏、奈多クラブは一番今林（賢）選手が四球を選び、二死三塁で四番今林（祐）選手が左翼線へ技ありの二塁打で先取点を奪った。その後は両投手とも二・三回を味方の好守もあって三者凡退を重ね投手戦になるかと思われたが、四回裏奈多クラブは、先頭の今林（瑠）選手の右翼線への三塁打で、無死三塁と絶好のチャンスを作ったが、その後の四番今林（祐）選手の右翼飛球でタッチアップを試みたものの、ジャガーズ道喜選手の好返球により帰塁アウトとなり、結局この回も無得点であった。どうしても追加点が欲しい奈多クラブは、五回裏二死より九番代打赤沢選手の安打から、一番今林（賢）選手の中前安打で、二死一・三塁とし二番久保選手が右翼線への二塁打で待望の追加点を獲得した。反撃したいジャガーズは六回、これまで堅守を誇っていた奈多クラブの守備の乱れに足で掻き回しついに1点を返した。そして最終回、1点を追うジャガーズは、一死から四番内田選手が右中間へ二塁打を放ち同点ランナーとした。それに対し、奈多クラブ今林（瑠）投手も負けじと三振を奪い二死二塁とし、六番田中選手が中前へ弾き返し、好スタートを切った内田選手の激走で同点かと思われたが、奈多クラブ木伏選手のストライク返球の捕殺で試合終了!! 因縁の対決は奈多クラブが制した。
(記事・写真：三苦ホーネッツ 永島貴文)



一回裏、二死三塁で左翼線へ二塁打を放った奈多クラブ四番今林（祐）選手。



この試合も好守が光ったジャガーズ荒木遊撃手。



四回裏、無死三塁のピンチを救ったジャガーズ道喜選手の好返球。



五回裏、二死一・三塁、右翼線へ二塁打を放った奈多クラブ二番久保選手。



七回表二死、ホームへ突入する同点ランナーのジャガーズ内田選手。



惜しくもタッチアウト！ 試合終了。

第1週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

4月5日は、雨は上がったもののグラウンド不良で開幕式のみが行われ、各チームの監督が今年に懸ける抱負を述べました。

執行部も久保田新会長（新町ウインズ）、今林辰也新副会長（奈多クラブ）、山崎友寛新副会長（三苦三球会）となり、心機一転がんばっていきます。

第1週、4月12日は4試合が行われました。

奈多グラウンドのソルトベ이스ターズ対三苦三球会戦は、ソルト先発の酒井投手の連続四球などで3失点したものの、後を受けた中村（祐）投手が踏ん張り、何とか試合になりました。四回表にソルト中村（耕）選手の2ランで1点差に迫るものの、やはり序盤に掴み損ねた流れは変わることなく、三球会が終盤大津、塚（太）選手のHRなどで一気に突き放し初戦を勝利。吉留投手の好投も光りました。ソルト春田捕手の強肩ぶりは、各チーム見ておいた方がいいでしょう。ちょっとしたファumbleで走るとアウトになりかねないからです。途中負傷交代したソルト中村（健）選手の足も心配ですね。

青松園Aの奈多フェニックス対新町ウインズ戦は、昨年の奪三振王、防御率1位のウインズ藤田投手に1安打15奪三振で完封負けをしたフェニックス打線がどう打つかに注目が集まりました。初回のチャンスを潰したフェニックスでしたが、四回表に四番実延（彰）選手のヒットからエラー、実延（新）のタイムリー三塁打などで2点を先制すると、実延（彰）、山村選手のHRなどで点を重ね計8点。投げては池見、今林（勇）投手の完封リレーで、新ユニフォームになって心機一転、昨年の雪辱を晴らしました。ウインズ藤田投手は9奪三振ながら踏ん張りきれませんでした。

雁レクDの三苦フレンズ対奈多サンデーズ戦は、若手が大量加入したフレンズは初回、その勢いのままに2点を先制するも、チャンスを作るものの決め手を欠き二回以降を0点に抑え込まれました。一方サンデーズは、フレンズ生野（拓）投手の制球の乱れに乗じて、地道に得点を重ねる。二回以降毎回得点で、とどめは奈多サンデーズの若き四番野々下選手が雁レクDライトの芝生を遥かに超える特大満塁アーチをかけ勝負あり。フレンズはこの敗戦で何が足りないのか、サンデーズの戦い方を参考にして、次回に活かして欲しいです。

青松園Bの塩浜ジャガーズ対奈多クラブ戦は、昨年サヨナラで奈多クラブを下したジャガーズに雪辱を晴らしたい奈多クラブが、四番今林（祐）選手のタイムリーで1点を先制すると、その後は投手戦に。二番久保選手のタイムリーで待望の2点目を取った奈多クラブでしたが、ノーヒットで1点差に迫ったジャガーズが望みを繋げた七回表、二死二塁の内田選手を田中選手のセンター前で迎え入れようとはしましたが、木伏中堅手の好返球でゲームセット！とは、何と劇的な幕切れ！これぞ開幕戦に相応しい一戦でした。負けはしたジャガーズですが、今後の戦いが楽しみ。何とか勝った奈多クラブはこれでノっていけるか？

今季から、3アウトを取ってから次の攻撃までの時間が1分となりました。私が初主審を務めたソルト対三球会戦で計測しながら行ってみたところ、概ね1分以内に3球の練習球を投げる事が可能でした。最後の方は10秒ほど余裕を残すほどでした。

また、捕手が二死でランナーに居る場合は、テンポラリーランナーとして前の打者（前の打者が出塁しているときはその前の打者）が代走として出場し、捕手はその間に準備が出来ます。

最初に1分を計ると宣言していたことと、両チームがテンポラリーランナーを採用して、七回まで行うことが出来ました。

審判の意識付けと両チームの協力があれば、1イニングでも多く試合を楽しめることが出来そうですね。